

心の拠り所

労働者委員 榮留 道夫

あの暑い夏が嘘のようにメッキリ秋めいてきましたが、県民の皆さま方は体調にはくれぐれもご留意してください。

さて、私は、仕事でも家庭でも、旅行をしている時も遊んでいる時も、常に心がけていることがあります。それは、「蒨草」です。難しい言葉ですが、ほうれん草（ホウレンソウ）と読みます。「ホウ」は「報告」,「レン」は「連絡」,「ソウ」は「相談」です。

今は、ネット社会・携帯電話社会で、瞬時に情報を取り入れることができます。また、約束していなくても瞬時に連絡をとることで、人と待ち合わせることができます。

しかしながら、20年前は、そうではありませんでした。必ず、事前に When (いつ) Where (どこで) 待ち合わせをするか、前回会ったときとか、公衆電話や固定電話や手紙などで決めていたわけです。

そうしないと、時間違いや場所違いで、1時間・2時間のロスは当たり前、最後には、その日会えない場合もあったのです。

私の例は、食事をするため、天文館のあるホテルの前で友人と18時に待ち合わせをしたのですが、友人が「待てど暮らせど」来ない。本人と連絡もとれない状況で1時間待っても来ないので、痺れを切らして自宅に帰り友人宅に電話をしたところ、時間は合っていましたが、場所が電車通りを挟んだホテル横でした。どちらが勘違いしたかは別として、どのような時でも、大事なことはきっちりと把握する必要があると痛感したところでもあります。

さて、「報告」は、「告げ知らせること。特に、ある任務を与えられた者が、その経過や結果などを述べること。また、その内容。」の意味、「連絡」は、「気持ちや考えなどを知らせること。情報などを互いに知らせること。また、その通知。」の意味、「相談」は、「問題の解決のために話し合ったり、他人の意見を聞いたりすること。また、その話し合い。」の意味です。

私たち労働委員会ですら行うことは、当事者からの「相談」を受けることです。話を聞くことで解決することもあれば、個別労働関係紛争のあつせんに発展することもあります。必要なことは、紛争解決のための「あつせん」をするにしてもしないにしても、関係者や委員同士が、「報告」,「連絡」を緊密にし、最終的には「相談」してお互い納得する方向を見つけ出して解決していくことです。

労働者・使用者の心の拠り所、それが労働委員会です。